

記者発表（発表・資料配布）				
月日（曜日）	担当課班名	TEL	発表者名 （担当班長名）	その他の発表・配布先
1 / 10（木）	教職員課 考 査 班	直通：078-362-3747 内線：5665	課長 吉田 克也 （岡田 悟）	なし

平成30年度兵庫県優秀教職員表彰について

1 目的

日々の学校教育活動において優れた取組を行っている教職員の努力を讃え、当該教職員が表彰を機にさらに意欲的にその実践力を高めるとともに、その成果を普及することで、本県教職員全体の職務意欲・資質能力の向上と本県教育の活性化を図る。

2 概要

（1）被表彰者

兵庫県教育委員会が任命権を有する市町組合立学校教職員、県立学校教職員の学校教育活動において、他の教職員の模範となる取組を行い、特に顕著な成果をあげている者

（2）今回表彰を受ける者

24名

なお、本表彰は平成18年度から実施しており、これまでに457名が受賞している。

<学校区分及び内訳>

分野	校 種	小学校	中学校	高等学校	特別支援学校	全 体
	①学習指導、研修・研究活動		5	1	1	
②生徒指導、進路指導		1				1
③課題教育(学校保健・食育、特別支援教育、人権教育、防災教育、その他課題教育等)		6	3	1	2	12
④開かれた学校づくり、その他の学校教育活動			1	3		4
合 計		12	5	5	2	24

※小学校には義務教育学校（前期課程）1名含む

3 表彰式

（1） 日 時 平成31年2月5日（火） 14:00～15:00

（2） 場 所 兵庫県公館 第一会議室

小学校（12名）

No.	氏名	学校名	職名	主な受賞内容	分野
1	林 美幸 はやし みゆき	伊丹市立笹原小学校	主幹教諭	日本授業UD(ユニバーサルデザイン)学会での経験を活かし、「特別な支援が必要な児童を含め、学校の児童全員が、楽しく学ぶことを目指す授業」を普及させ、他の教職員の範となった。 学習道具などの整理が苦手な児童のため、必要な個人の道具を分別して保管する「マイボックス」や、書くことが苦手な児童のため、ノートと同じマス目のホワイトボードを使用した指導などを実践し推進した。 また、伊丹市教育委員会が発行している教職員資料『みんなの教室 みんなの授業』（平成26年度）、『みんなの教室 みんなの授業2』（平成27年度）に自身の取組が掲載され、ユニバーサルデザインを重視した授業の推進に寄与した。	
2	上月 幸代 こうづき ゆきよ	加東市立三草小学校	主幹教諭	平成24年度に県の学力向上実践推進委員として、「学習指導等の改善・充実のポイント」のリーフレットの作成に携わり、算数・数学分野において、新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導について分析・検証した。作成したリーフレットは県内全校に配布され、授業改善等に寄与した。 また、平成24年度から3年間、東播磨地区教科等指導員として、10年経験者研修の講師を務め、平成26年度は、初任者研修で算数教育、教材研究や授業づくり等についての講師を務めた。 平成30年度、兵庫県小学校教育研究会で授業を公開するなど、研修・研究活動を通して、教員の指導力向上に寄与した。	
3	澤野 雅紀 さわの まさのり	豊岡市立中筋小学校	教諭	平成25年度から、市内小学生の基礎体力の向上を目指す豊岡市体力向上検討委員会の委員として、「豊岡市版小学校準備運動」を豊岡市教育委員会と考案した。 BGMに合わせて動くことで、より体力が向上するという「豊岡市版小学校準備運動」は、平成27年4月から市内全小学校（29校）で、体育の授業の準備運動として導入された。 また、この取組について、平成28年度に、第54回兵庫県学校体育研究発表大会で発表し、平成30年2月に兵庫県小学校教育研究会体育部会が発行する「小学校体育の研究」に掲載された。 平成29年度には、市教育委員会の推薦により、全国体育・保健体育指導力向上研修に参加し、その成果を但馬地区の幼稚園・小学校教員体育実技指導力向上事業や兵庫県学校体育実技指導者講習会で普及させるなど、体育の指導力向上に寄与した。	学習指導、研修・研究活動
4	岸本 周子 きしもと ちかこ	篠山市立西紀小学校	教諭	平成25年度から2年間、篠山市教育委員会の学力向上ワーキングチームの委員となり、授業改善、家庭・地域・小中連携の改善ポイントをまとめたリーフレット「指導力パワーアップの手引き 確かな学力を育む」の作成に尽力した。 平成28年度から、篠山市外国語教育推進ワーキンググループの推進リーダーとして、新学習指導要領による外国語教育スタートのための「篠山モデルプラン」を策定した。 また、平成29年度に文部科学省の英語教育推進リーダー中央研修に参加した経験を活かし、地区別研修や教育事務所主催の研修の講師として活躍している。 平成30年度は、県教育委員会が設置した小学校外国語教育指導用映像資料検討委員会の委員となり、映像資料の作成など、小学校での外国語教育の導入に向けた学習指導の充実にも寄与した。	
5	浜田 啓久 はまだ けいこ	南あわじ市立八木小学校	教諭	発達障害（LD）の子どもの学力・運動能力向上に有効な「ビジョントレーニング」の動画教材をはじめ、多くの教員が使える教材コンテンツを作成し、ネット上(Youtube)に紹介した。 日本LD学会佐賀大会（H27）において、視覚機能の知見を活かした指導法や取組を発表したほか、その後も県内各地の学校や研修会で講師として活躍し、特別な支援を要する児童への学習指導の向上に寄与した。	
6	藤原 伸二 ふじわら しんじ	三田市立高平小学校	教諭	「児童理解に基づく生徒指導」について、市内小学校生徒指導担当者会の中心として、他の教員に生徒指導のノウハウを伝えるなど、市内の取組を主導している。 平成24年度から27年度に阪神地区小学校生徒指導連絡協議会役員を務めるなど、阪神地区全体の生徒指導力の向上に寄与した。 また、阪神地区小学校体育教育研究大会(H28)や、阪神地区学校図書館協議会研究大会(H29)においても、自身の取組を他の教員に広め、学校教育全般にかかる教員の指導力の向上に寄与した。	生徒指導・進路指導

No.	氏名	学校名	職名	主な受賞内容	分野
7	ながた 永田 守	芦屋市立打出浜小 学校	教諭	阪神淡路大震災以後、上級生が震災について調べたことを下級生に語り継ぐ「震災を語り継ぐ会」を企画・運営した。 平成29年度は地域と連携した避難所運営訓練を実施し、防災教育の担当として、地域との連携に尽力したほか、これらの取組をまとめた論文は、平成29年度に日本教育公務員弘済会から優秀論文として表彰された。 また、平成19年度から震災・学校支援チーム（EARTH）の一員となり、阪神間や長野県松本市などの防災についての研修会等で講師を務め、平成25年には、宮城県の東松島市、石巻市、女川町などの被災地で復興支援にあたり、被災地域の子どもの心のケアや支援を行うなど、防災教育の充実・発展に寄与した。	課題教育(学校保健・食育、特別支援教育、人権教育、防災教育、その他課題教育等)
8	くにもと 國本 美幸	加古川市立平岡小 学校	教諭	特別支援教育コーディネーター、通級指導教室担当として、平成29・30年度に市内小学校の職員研修の講師を務めた。 また、平成28年度には、市内特別支援教育担当者会より推薦を受け、兵庫県情緒障害教育研究大会フォーラムで、通級学級での指導事例を挙げ、「通級指導教室と通常の学級との連携」の視点から、実践に基づいた発表を行った。 平成29年度には、教育心理研究会理事の依頼を受け、兵庫県教育心理研究会で、実践発表を行うなど、特別支援教育の充実・発展に寄与した。	
9	やまぐち 山口 正明	三木市立緑が丘小 学校	主幹教諭	平成21年度から震災・学校支援チーム（EARTH）の一員として、災害時に被災地へ派遣され、被災地の復興支援に携わるなど、県内外の防災教育に取り組んでいる。 また、平成23年、トルコ共和国で行われた防災教育にかかる教員研修で講師を務めたほか、平成26年には、「トルコ共和国防災教育プロジェクト」の運営指導調査団員となり、トルコ共和国における防災教育の進捗状況を調査し、調査結果をトルコ共和国国民教育省に報告した。 平成30年7月に発生した豪雨での災害時には、岡山県に派遣され、被災地の学校環境整備にあたるなど、国内外において、防災教育の充実・発展に寄与した。	
10	なかつまり 中玉利 展子	姫路市立白鷺中 学校	主幹教諭	平成19年から震災・学校支援チーム（EARTH）の一員として、県内外の防災教育に取り組んでいる。 平成23年東日本大震災の発生時には、約9か月間、宮城県内の高校へ養護教諭として派遣され、被災した学校の復興支援活動を行い、災害を受けた子どもたちの健康面や心のケアにあたった。 また、平成28年に発生した熊本地震や平成30年に発生した大阪北部地震の際にも、被災地の小学校等に派遣され、被災地の復興支援活動に尽力するなど、防災教育の充実・発展に寄与した。	
11	いわもと 岩本 剛	たつの市立小宅小 学校	教諭	人権教育において、「習得した知識を活用して思考する人権教育（差別を見抜く目を養う人権教育）」の授業を開発した。 「差別事象を科学的に認識することで、自他の人権を守る実践行動力が可能になる」という理論を全国社会科教育学会（H24）、日本人権教育研究学会（H25）で発表し、日本人権教育研究学会の学会誌に学術論文が掲載（H29）された。 また、兵庫教育大学大学院や、県内の小中学校での研修会等で講師を務めるなど、人権教育の充実・発展に寄与した。	
12	あらかし 荒木 真也	丹波市立南小 学校	主幹教諭	平成22年度から震災・学校支援チーム（EARTH）の一員として、災害発生地域に派遣され、復興支援活動に尽力した。 また、篠山市、丹波市の小中学校の防災集会などにおいて、阪神・淡路大震災を伝える講話を実施し、避難所運営の支援や地域防災体制の強化について提案した。 県内小中学校及び県、市教育委員会主催の研修会等に講師として参加し、教員に対して、災害時の子どもたちの心のケアや震災への対応及び避難所開設等についての指導助言を行うなど、防災教育の充実・発展に寄与した。	

中学校（5名）

No.	氏名	学校名	職名	主な受賞内容	分野
13	なかお しょうじ 中尾 昌二	淡路市立津名中学校	教諭	<p>道徳教育実践研究の推進にあたり他の教員の模範となった。平成28年度から淡路地区の教科等指導員（道徳）となり、淡路地区中学校の若手教員研修等に講師として招聘され、模範授業や講義を行い、対話のある道徳の授業づくりの実践と普及に取り組んだ。</p> <p>また、平成29年度には、淡路地区で開催された兵庫県中学校教育研究会道徳部会主催の第12回兵庫県中学校道徳教育研究大会において、委員長として企画運営に貢献するなど、道徳教育の充実・発展に寄与した。</p>	学習指導、研修・研究活動
14	おおたに まこと 大谷 誠	明石市立錦城中学校	主幹教諭	<p>平成13年から震災・学校支援チーム（EARTH）の一員として、災害時には被災地へ派遣され、被災地の復興支援に携わるなど、県内外の防災教育に取り組んでいる。</p> <p>東日本大震災、熊本地震、鳥取地震の際は、現地の教員への助言や避難所運営の支援などの復興支援を行った。</p> <p>また、平成30年には、兵庫県や被災地で、防災教育と心のケアについて、研修講師を務めるなど、防災教育の充実・発展に寄与した。</p>	
15	こばやし ひであけ 小林 英武	姫路市立四郷中学校	教諭	<p>平成26年度に行われた小中一貫教育全国サミットin姫路において、小中一貫教育の推進リーダーとして尽力した。</p> <p>小中一貫教育目標として、「夢を持ち続け、自己実現を図れる子どもをめざして」を掲げ、道徳・人権教育を核とした研究を進めた。</p> <p>また、キャリア教育の中心として、「生徒一人一人が達成感と自信を持てる活動」に尽力した。</p> <p>地域に学ぶ職場体験「トライやるウィーク」をキャリア教育の中心とし、小学校段階からの9年間の学びを重視した「キャリアノート」などの取組が評価され、キャリア教育優良団体として、同校が文部科学大臣表彰を受賞した（H28）。</p> <p>その成果を姫路商工会議所、社会福祉協議会、警察署等、各種団体が参加する「姫路市トライやる・ウィーク推進協議会」（H29）で発表するなど、キャリア教育の充実・発展に寄与した。</p>	課題教育（学校保健・食育、特別支援教育、人権教育、防災教育、その他課題教育等）
16	やました のりこ 山下 紀子	相生市立那波中学校	教諭	<p>平成26年4月より学校生活支援教員として、校内支援体制の充実を図るとともに、市内の通級指導員としての指導は、生徒・保護者との連携を強固なものとした。</p> <p>播磨西地区サポートネット会議のリーダー的存在として、生徒に応じた教材を活用した指導方法は、生徒・保護者から信頼を得ている。</p> <p>また、小・中・高の校種間連携の充実に尽力し、平成29年には播磨西地区サポートネット会議において、「中学校における通級指導の実践」について、発表を行うなど、特別支援教育の充実・発展に寄与した。</p>	
17	よしき しんいちろう 吉木 真一郎	伊丹市立松崎中学校	主幹教諭	<p>吹奏楽部顧問として、東京都で開催された全日本リコーダーコンテストに平成26年度から平成29年度まで連続出場に導いた。</p> <p>生徒の音楽に対する意識を高め、平成26年度と28年度は金賞を受賞し、平成29年度は銀賞を受賞した。</p> <p>平成29年度、長崎県の浦上天主堂で平和セレモニーを開催し学年全員で合唱し、生徒の達成感と自尊感情を向上させるなど、学校教育活動の充実・発展に寄与した。</p>	開かれた学校づくり、その他の学校教育活動

高等学校（5名）

No.	氏名	所属	職	主な受賞理由	分野
18	よこやま きろく 横山 木郎	県立湊川高等学校	教諭	<p>県学力向上サポート事業の責任者として、県内の定時制高校と連携し、学び直し教材を共同で開発した。</p> <p>平成29年度に、不登校を経験した大人と生徒との対話を重視した自己肯定感を高める授業プログラム「クレッシェンド」を兵庫県で初めて導入した。</p> <p>平成30年度は、県立教育研修所が発行する「兵庫教育」や兵庫県人権教育研究会等で、「クレッシェンド」の取組が紹介された。</p> <p>また、生徒の調理師免許取得を支援する教育課程の編成についても、中心となって取り組み、平成29、30年度に各2名の合格者を輩出した。</p> <p>このほか、約20年間、理科教育研究グループで活動し、各地で小中高生らに科学の楽しさを伝える活動を行うなど、学習指導を通じ、教育活動の充実・発展に寄与した。</p>	学習指導、研修・研究活動
19	たたら めぐみ 多々良 恵	県立山崎高等学校	教諭	<p>平成24年度から校内で防災訓練を実施し、その後も様々な防災活動を行っている。</p> <p>平成27年度は、栄養補給に配慮した炊き出し訓練や地域の高齢者を避難誘導する訓練を実施した。</p> <p>平成28年度は、自治会内の危険箇所・高齢者宅を訪問調査し、防災マップを作成し、全戸に配布したほか、生徒企画による防災誘導訓練、防災炊きだし訓練を実施した。</p> <p>平成29年度は、自衛隊による防災講習会を実施し、地域住民と共同で避難所運営体験を実施した。</p> <p>平成30年度は、地域の商業施設で防災ワークショップを開催した。</p> <p>このような、一連の防災活動が評価され、本県主催の「1.17ぼうさい甲子園」で、28年度から3年連続で同校が表彰されており、防災活動を通じた防災教育の充実・発展に寄与した。</p>	課題教育(学校保健・食育、特別支援教育、人権教育、防災教育、その他課題教育等)
20	さかもと たづこ 坂本 多津子	県立三田西陵高等学校	教諭	<p>地元自治会と共同して、コミュニティーセンターを会場に、生徒と地域住民がお茶を飲みながら交流する「コミュニティーカフェ」を平成30年3月に実施した。</p> <p>山崎高校在籍時は、空き店舗を利用して、生徒が作った和洋菓子を販売するなど、学校生活を市民に伝える場として「山高街の駅」を開設し、空き家を利用した高校生レストランを開き、お菓子作り、料理教室の開催などにも発展し、学校教育活動の充実・発展に寄与した。</p> <p>また、平成30年度の西日本豪雨災害時には、現地支援ボランティア活動を行い、被災した住宅の家具の運び出しを行ったほか、その後も西日本豪雨災害街頭募金活動を行い、防災教育の充実・発展に寄与した。</p>	
21	こうやま まさひろ 香山 正博	県立龍野北高等学校	教諭	<p>様々な形態で「産・官・学」と連携した地域貢献活動として、</p> <p>①たつの市商工振興課の協力で、「ファッションショー」を主催</p> <p>②空き町家を使った展覧会「町ちゅう美術館」を開催 生徒が作成した、絵画、皮革、染織、インテリア、製図、CG、映像等の作品を30箇所以上の会場で展示。</p> <p>③JR西日本姫路鉄道部と連携し、路線マップを、毎年15種類ほど作成し車内に掲示</p> <p>④たつの市青少年館主催で市立の全幼稚園と連携した青空キャンパス壁画の制作 生徒がコンパネ30枚1セットに下絵を描き、巨大壁画を制作している。</p> <p>⑤にしん地域振興財団と協力し西兵庫信用金庫のショーウィンドウをディスプレイする作品を制作 を展開するなど、地域貢献活動を継続して実施した。</p> <p>このほか、「第52回全国高等学校デザイン教育研究会 全国大会2014佐賀」において、「産・官・学・地域の連携」として、地域貢献活動について研究発表を行い、地域等と連携した学校教育活動の充実・発展に寄与した。</p>	開かれた学校づくり、その他の学校教育活動
22	さわだ きよみ 澤田 紀世美	県立太子高等学校	教諭	<p>現任校の「Jコーラス部」の顧問として、年間50以上のステージをこなす「歌のボランティア活動」を展開している。</p> <p>幼稚園、高齢者施設、障害者施設、特別支援学校、地域の行事等を中心に活動し、観客を巻き込んだ心温まるステージを披露している。</p> <p>近年では、森田美由紀氏や谷本賢一郎氏といった、プロの舞台にゲストとして招かれ、Jコーラス部の歌声が持つ温かさは高い評価を得ている。</p> <p>地域から、「ボランティアなら太子高校生に」というイメージが浸透し、ボランティアの依頼が多々ある。</p> <p>このような取組が評価され、ユニバーサル社会づくりひょうご推進協議会より、Jコーラス部が2年連続で表彰（H29 H30）されるなど、地域等と連携した学校教育活動の充実・発展に寄与した。</p>	

特別支援学校（2名）

No.	氏名	学校名	職名	主な受賞理由	分野
23	八乙女 利恵	県立西神戸高等特別支援学校	主幹教諭	<p>特別支援教育コーディネーターとして、三田市教育委員会と連携し、幼稚園、保育園、小学校、中学校の通常学級への巡回教育相談を展開した(H22～H25)。</p> <p>また、三田市教育委員会の依頼により同市の「特別支援教育相談室」の相談員となり、教員及び保護者対象の相談を受けたほか、障害のある児童生徒に対する授業づくりに関する研修会や介助員対象の研修会で講師を務めた(H22～H25)。</p> <p>特別支援教育センターと連携し、「部長研修（現リーダー研修）」の企画運営を担当し、「現職教員の専門性向上のための研修のあり方（共同研究）」として年次報告書をまとめ、ワークショップ形式の研修スタイルを導入(H26～H27)。</p> <p>平成29年度からは、県立西神戸高等特別支援学校の開校にあたり、新たな特別支援学校におけるキャリア教育を推進するための独自カリキュラムの作成など、特別支援教育の充実・発展に寄与した。</p>	課題教育(学校保健・食育、特別支援教育、人権教育、防災教育、その他課題教育等)
24	平田 真二	加古川市立加古川養護学校	主幹教諭	<p>平成23年度から、校内研究推進委員長として、授業づくりを中心とした研究体制を推進し、授業実践データベースシステムを構築した。</p> <p>これまで教職員が取り組んできた授業内容、指導案、教材等をデータベースに登録し、現在では、1,500以上の実践例が登録され、効率よい教材研究や授業づくりに繋がっている。</p> <p>平成28年度の全国肢体不自由教育研究協議会全国大会分科会において、自身が取り組んできた指導事例・実践を発表し、参加者に取組を広めた。</p> <p>その後も、新学習指導要領に対応した教育課程の編成等に尽力するなど、特別支援教育の充実・発展に寄与した。</p>	